

さくらんぼひがしね 2 日間大会 2008

2008 年 6 月 28, 29 日 (山形県 東根市)

一瞬も気の抜けないスプリント。タフな登りのロング。これを制覇したものにのみ与えられるさくらんぼ! 栄光を目指し 2 日間 3 レース さくらんぼ争奪合戦!

活況! さくらんぼ大会

さくらんぼ大会は毎年山形県協会が開催している大会で、今年は 6 月 28, 29 日の日程で「佐藤錦」発祥の地である東根市を舞台に熱き戦いが繰り広げられた。

東根市は今年で市制施行 50 周年を迎え全面的に協力していただくことができた。

今年スプリント 2 本、ナイト-01 本、ロング 1 本の計 4 本がすべてニューマップで行われ、地図作成は毎度おなじみとなった町井稔氏に加えインカレでおなじみの日下雅広氏、コントロールに渡辺研也氏を迎え無事 2 日間大会を開催することができた。参加者は 2 日間とも 300 人に達する盛況を見せ、それぞれが賞品のさくらんぼをめざし、公園、スキー場を縦横無尽に駆けめぐった。



毎年さくらんぼ大会について回るのが運営の問題である。今年も武石ファミリー、東北大 OLCOB を中心に運営が行われたが、やはり運営者不足は否めない。そのため今大会ではスタート方式にある改革を実行した。スタート地区では参加者のナンバーと E カードの動作チェックのみを行う方式である。この方式を用い、タイムスタートがマススタート的とすることでスタートに関わる人員を大幅に削減することが

できる。ヨーロッパでは一般的であるが、以前関東リレーが少ない運営者で行われているのを見てまねさせてもらった形である。

結果として若干計算センターにしわ寄せは来るものの、全体として効率化に繋がったのではないだろうか。

スプリント 1

スプリント 1 は会場近くの公園を利用して行われ、1 シート 2 マップ制が用いられた。

この方式は 1 枚の地図用紙に上下、同じ地図が掲載されている。そしてまず上の地図に があり、順番にたどっていくと最後のコントロールから下の地図に向けて矢印が伸びている。ここが折り返し地点である。その後、今度は下のマップを用いて競技を行う。



スプリント 1 では普段のレースとの縮尺の違いや隣ボの多さ、高速レースに飲み込まれ次々とペナとなっていく選手が相次いだ。

とにかく隣ボが多い。目を上げれば複数個見えるというレベルではなく、一部分では文字通りすべてのヤブに一つずつフラッグがついている。もちろんダミーではない。

また、一時はペナ扱いとなったが、提訴によりペナが取り消されることもしばしばあった。これは 1 シート 2 マップ制を用いることで同じ番号のコントロールを複数回とってしまうことが原因となった。つまり、一度通ってしまえばバックアップラベルに針の跡が残り、二回目にとったかどうかは本人

の自己判断に任せるということになってしまった。計算センター側でもこの問題に最初気づいていなかった。

毎年斬新なアイデアを提供しているので、常連のファンも増えているが実戦を経て初めて判明したり反省させられることが多くある。

スプリント 2

スプリント 2 は会場周辺の運動公園を利用して行われた。特にスプリント 2 はさくらんぼ大会名物といっても過言ではないタッチフリー方式とこれでもかというくらい複雑なバタフライループが参加者を苦しめた。ただ、1 本目の教訓を生かし慎重になったためか 1 本目よりもペナの選手が大幅に減少した。



写真はスタート前の参加者集団。レース中のランナーの姿が下方に見えるので注視している。

ナイト・オリエンテーリング

今回初の試みであるナイト・オリエンテーリング(ナイト-0)は堂の前公園で行われた。この日は新月 3 日前であり、公園内には一切照明がないというまさにナイト-0 にふさわしいコンディションとなった。

また、このレースでは直前に急遽ペア制が導入された。これは選手の安全確保だけではなく、将来のオリエン界の発展を祈っての発案という運営者のささやかな願いが込められている。

ナイト-0 では明かりの使い方がレースの明暗を分ける。コントロールは正確にフラッグを照らせば反射して闇夜でも目立つが、少しでもずれると全く位置がわからなくなってしまう。ペア制では地図は各ペアに一枚のみとしたため、その使い方も勝敗を分けたのではないかと。



レース終了後、多くの選手から楽しかったとの声が聞かれたのが非常に印象的であった。

ロング

ロング競技は東根市近郊にあるスキー場を舞台に熱いレースが繰り広げられた。

天候はあいにくの小雨。しかし、これが逆に恵みの雨となったようだ。標高は確かに高いが、晴れば非常に暑くなるテレインであり、火照る身体をほどよく雨が冷やしてくれなければ完走率はずいぶん下がったことであろう。



さくらんぼゲットを目指す女性ランナーの気迫



コースはスキー場らしいタフな登りが多用され、前日の技術寄りのコースから一変し体力が要求されるレースとなった。

さくらんぼの魅力

さくらんぼ大会では賞品としてさくらんぼを提供しているため、時期が非常に限定されてしまう。6月下旬は梅雨も重なり暑いだけでなく、テレインのヤブさも非常に酷な時期である。地図調査を行う頃は植生がAの所でも実際競技を行う頃にはB,Cになっていることも多々あり、開催時期について運営者からも疑問の声が上がっていた。今回初めてアンケートを実施し、開催時

期について

1. テレイン状況がきつくてもさくらんぼのおいしい時期
 2. オリエンのしやすい時期
- と質問したところ、大多数の人がさくらんぼのおいしい時期がいいと答えた。やはり、さくらんぼ大会はさくらんぼがあってこそさくらんぼ大会であり、賞品ねらいで大会に参加している選手が多いという現状を改めて認識することができた。

主催者からひとこと

参加してくれた皆様ありがとうございました。この大会の目指していることが大きく二つあります。

一つは純粋にオリエンテーリングを競技し、とことん楽しませること。

私たち運営の主役は口に出して言いませんが心底にこのベースがしっかり存在しています。

これは毎年ボランティア的に運営に参画してくれる東北大や宮城学院女子大の諸君も、地図調査や試走そして大会準備の期間中に感じてくれ、老兵は時として一人涙することがあります。

雪が深き東北の山間部で新たなテレインを開発、折衝の苦労もこのベースが存在しているからです。

ローカル大会としてこれほど多様なクラスを設置したこの大会が、JOAの公認にしなつたのは今年度の「北海道・東北選手権」を併設したため、開催規定上Eクラスを設置できない制約があったからです。

来年、第10回となる「さくらんぼ大会」は、東北にすっかり根付いたメジャー大会になったと自負しています。

二つ目は、初夏の果物の王様「さくらんぼ」をおいしく食べて欲しいからです。この時期インターネットメール等で発送を引き受けてきましたが、高価だし保管にデリケートで大会参加が忙しいオリエンティアはなかなか直に味わう機会が少ないと思い、入賞者以外にも大盤振る舞いで賞品・景品にさくらんぼとしていることです。

仕入れは毎年同じ果樹農家(元木太一氏)からで、生産コンテストで毎年上位入賞し、これまで日本一に数回表彰され、数年前から皇室献上品指定されていることは特筆に与えることではなからうか。

最後に一つだけ苦言を言います。二日目の会場がシーズンオフで休業中のスキー場を借りましたが、高圧電力が自家発電で運転すると高額な予算が必要のため、建物内のトイレ使用が出来

なく、簡易移動用をレンタルしました。

建物内トイレの使用禁止を徹底したはずでしたが女性用に3人、男性用に1人、不心得者が出たことはとても残念です。

そのことは、会場出・入口を専用にしましたが、一部の守れない者もいたことも付け加えます。

早く運営し、早く参加していただくためにある程度のルールは存在します。皆さん、一人ひとりが遵守しなければ規則で制約の事態に発生します。

総合成績クラス1位

(タイムは3レースの合計)

M10	渡辺綺羅	1:58:37
M20A	大木孝	1:09:13
M21A	藤沼崇	1:35:48
M21AS	柴田達真	1:18:21
M35A	羽鳥和重	1:13:02
M50A	宇野浩一	0:53:56
M60A	山本博司	0:50:14
M70A	手塚一夫	1:42:16
MB	齋藤貴之	0:46:38
W10	吉田桃子	1:21:29
W12	小林璃衣紗	0:36:59
W20A	笹田京	1:22:44
W21A	酒井佳子	1:21:51
W21AS	下村淳子	1:14:28
W35A	小林正子	1:07:30
W50A	大保木道子	1:12:37
W60A	芝聖子	1:27:12
WB	跡部江里	1:04:39

(主筆 大井恵介)
(補筆 町井 稔、武石雄市)